

# 大船渡・陸前高田写真展報告とお礼

大船渡・陸前高田支援ネットワーク 佐々木 亨

だいぶ、時間が経過してしまいましたが、三月二日、一七日に開催した写真展（名古屋市博物館）の報告です。



入場者数は一三〇〇人を超えました。想像以上の人数でした。マスコミにも大きく取り上げられました。読売新聞は事前に東北にいった記者が大船渡の佐藤尚義、叶さん取材し社会面の大きなスペースで報じました。開会後は中日、毎日報道し、テレビでも東海テレビ、メーテレ。中京テレビが取り上げました。特にNHKが朝二回放映してからは大幅に来場が増えました。

一六日には、写真パネルを作成した、佐藤叶さんを囲んでの座談会を行いました。座談会も七〇人以上が参加しました。佐藤さんは津波からのがれながら、尚義さんが写真を撮りつづけたこと、一部浸水した旧自宅に避難したとき、衣類も食料もないなかで、近所の人が下着などわけてくれたこと、ロウソクの火をみながら

頑張っていたことなどをリアルな体験として話しました。近所の人たちなど、人々の支えあいの力を実感したそうです。

今回の写真展は多くの人に支えられました。

カンパも多かったです。たし設営、撤収や受付などの



会場係に多くの協力をしてもらいました。今回初めての試みとしてボランティアの募集をしたところ、短期間に六人も学生の人たちが応募してくれ、受付の主力として頑張ってもらいました。運営に協力していただいた方、カンパを寄せてくれた方、チラシなどの配布に協力してくれた方などに本当に感謝しています。ありがとうございます。



写真展をして感じたこと。改めて、写真というか、映像表現などのもつ力というもの。今回の成功の最大の原動力は写真そのものが語りだした物語なのだろう。

